

---

---

日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 104 号 2008 年 5 月 31 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

---

■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2008 年度第 1 回研究集会のご案内	2
日本図書館文化史研究会 2008 年度研究集会のご案内	4
2008 年度研究集会個人発表募集のお知らせ	5
日本図書館文化史研究会 2007 年度第 3 回研究例会報告	6
中国研究の専門図書館—香港中文大学中国研究服務中心訪問記— (楊 韜)	7
研究例会発表募集のお知らせ	
毛利宮彦早大図書館退職の謎の解決 (中西 裕)	8
『図書館文化史研究』第 26 号原稿募集のお知らせ	
『ニューズレター』原稿募集のお知らせ	
運営委員会通信	10
事務局だより	11
会費納入のお願い	
住所変更等のご連絡をお願いします	
会員動向	
日本図書館文化史研究会 2008 年度第 3 回例会のご案内	12

日本図書館文化史研究会

2008 年度第 1 回研究例会のご案内

『ニューズレター』前号で、3 月 15 日に臨時研究例会を開催し、『図書館人物伝』の総括を行うことのお知らせしました。しかしながら、事前参加申込者が僅少のため、臨時研究例会の開催を取りやめました（運営委員会は開催）。参加を予定していた方々に深くお詫び申し上げます。

『図書館人物伝』は研究会の 25 周年事業の一環として刊行されたものであり、その総括は不可欠であるといえます。そこで、2008 年度第 1 回の研究例会であらためて総括を行うこととし、下記のようにお二方に報告をお願いしました。多くの方のご参加をお待ちしています。

なお、今回ご報告をお願いした高橋和子氏は、『図書館雑誌』の「図書館員の本棚」欄に「図書館人物伝」の紹介を執筆される予定となっています。

記

- 日 時 7 月 12 日（土） 14 時 30 分～17 時
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン 8 階 司書・司書教諭室  
[http://www.meiji.ac.jp/koho/campus\\_guide/suruga/campus.html](http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html)  
※ アカデミーコモンの位置、交通等は 3 ページ掲載の地図をご参照ください。
- 参加費 無料
- 申込方法 参加ご希望の方は、本研究会事務局まで、郵便、ファックス、または電子メールでお申込ください。
- 申込締切 7 月 9 日（必着） でお申し込みします。

【発表 1】

- 報告者 **高橋 和子**（相模女子大学名誉教授）
- 報告題名 『図書館人物伝：図書館を育てた 20 人の功績と生涯』「日本人編」を読む
- 報告要旨 「図書館の発展に尽くした人物の本格的な評伝集」と銘打った本書は、副題にもあるように図書館を育てた 20 人の功績と生涯を論究した力作ぞろいの人物伝である。  
このたび本会研究例会での発表の機会を与您にいただいたので「日本人編」について扱わせていただくこととした。  
執筆者の方々が図書館活動との係わりにおいて、あるいは研究主題として取り組まれてきた、図書館先人達 10 人の人物評伝は、読む側（私自身）の労力

も結構要求されるものであった。

被伝者としての人物が図書館界に残した業績については、おおまかには理解していたが、細分にわたっては評伝を読むなかから知識を得た部分もある様に思う。筆者の方々の調査、研究姿勢に敬意を表したい。

評伝を通して若干のコメントができればと考えている。

【発表2】

○ 報告者

泉山 靖人 (東北大学)

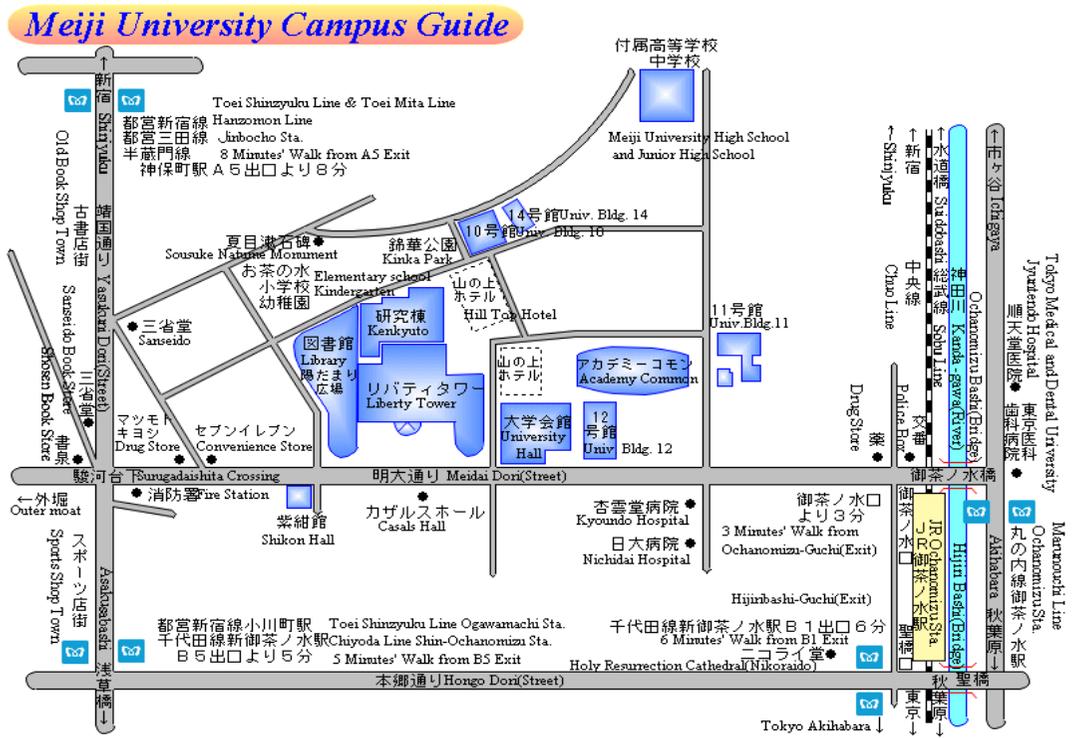
○ 報告題名

図書館人物伝「外国人篇」を読む

○ 報告要旨

『図書館人物伝』の外国人篇は、ドイツ、カナダ、米国、ハンガリー、シンガポール（およびマレーシア）で活躍した 10 名の人物について、筆者各々の視点から、その生涯を描いている。

本報告では、それらを概括するとともに、本書における人物研究から見えるものの分析を試みたい。



日本図書館文化史研究会  
2008 年度研究集会のご案内

2008 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、おおむね下記のように開催することになりました。多くの方の参加を期待します。

なお、個人発表の内容など詳細につきましては、ニューズレター次号でお知らせします。また個人発表の内容などが決定次第、研究会のウェブサイトに掲載します。

記

- 日 程： 2008 年 9 月 14 日（日）・15 日（月・祝）
- 会 場： 工学院大学・新宿キャンパス 28 階第 1 会議室  
新宿区西新宿 1 丁目 24 番地 2  
<http://www.kogakuin.ac.jp/campus/shinjuku/shosai.html>  
※ 懇親会会場については『ニューズレター』次号でご案内します。
- 交 通： JR 各線・小田急線・京王線・地下鉄各線「新宿駅」下車、  
徒歩 5 分  
都営地下鉄大江戸線「都庁前駅」下車、徒歩 3 分  
<http://www.kogakuin.ac.jp/map/shinjuku/index.html>
- 参加費： 3,000 円  
※ 懇親会参加費：5,500 円程度
- 申込方法： 次の事項を明記して、下記まで電子メール、ファックス、または葉書でお申し込み下さい。  
氏名（ふりがな）  
所属  
懇親会参加の有無
- 申込先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町 908 作新学院大学  
司書・司書教諭課程 小黒 浩司  
電子メール：  
ファックス：028(670)3671
- 申込締切： 2008 年 8 月 31 日（必着）

○ プログラム

**第 1 日** : 9 月 14 日 (日)

13:00- 受付開始

13:15-14:00 会員総会

※ 審議未了の案件がある場合、2 日目の個人発表終了後に引き続き審議します。

14:00-15:30 特別講演①

竹内 愨 21 世紀の図書館協力と「本のみち」  
—IFLA ソウル大会に因んで—

15:45-17:00 特別講演②

阪田 蓉子 本間一夫と日本点字図書館

17:30-19:30 懇親会

※ 懇親会の詳細については、『ニューズレター』次号でご案内します。

※ 宿泊は、各自でご手配ください。

**第 2 日** : 9 月 15 日 (月・祝)

10:00-15:00 個人発表 4 件

15:00-16:30 運営委員会

※ 昼食は、会場周辺のレストランなどをご利用ください。

日本図書館文化史研究会  
2008 年度研究集会個人発表募集のお知らせ

2008 年度研究集会・第 2 日 (9 月 15 日) での個人発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記事務局までお申し込みください。

発表時間は質疑応答を含めて 1 件 1 時間程度を予定しています。

- 氏名 (所属)
- 連絡先 (住所、電話、メールアドレス等)
- 発表題目
- 発表要旨 (200 字程度)

日本図書館文化史研究会  
2007年度第3回研究例会報告

2007年度第3回研究例会は、西日本図書館学会との共同開催で、「山口県の図書館人—今につながる先覚者たち—」と題して、2008年3月1日に開催されました（西日本図書館学会は2007年度図書館学セミナーとして実施）。参加者は両会あわせて70名を超え、盛大な例会となりました。

例会は、山口県立山口図書館レクチャールームを会場に、西日本図書館学会中河原徳仁会長と本研究会阪田蓉子代表の挨拶で始まりました。ついで本研究会名誉会員の河井弘志氏の特別講演「図書館の歴史と現在」が行われました。なお、この講演の内容については、『図書館文化史研究』第25号に掲載予定です。

続いて、以下の4氏による発表が行なわれました。いずれも、山口県にゆかりのある図書館人に関する発表でした。

- 田澤明子（山口県立山口図書館資料情報課主幹）：『出納所論』に見る実践の図書館人・田村盛一について—佐野館長時代の山口県立山口図書館に始まる足跡を辿って—
- 上野善信（山口県立山口図書館事業推進課主査）：伊藤新一（元明木村立図書館長）に関する—考察—間宮不二雄に『生まれながらの司書（a born librarian）』と言わしめた図書館人—
- 福永義臣（前九州国際大学教授）：伊東新一と『図書館』—L.Y.L.との関係を中心に—“利用指導の指摘考察—ふたたび—”
- 小川 徹（本研究会名誉会員）：法政大学図書館所蔵「佐野文夫文庫」中の佐野友三郎旧蔵書について

例会終了後は、市内湯田温泉「割烹 きむら」で、両会の会員が参加して、懇親会が開催されました。こちらの参加者も40名を超え、たいへんな盛会となりました。懇親会は、西日本図書館学会福永義臣氏の挨拶ののち、河井弘志氏の乾杯で開宴し、両会の会員が交流を深めました。

翌3月2日には、オプションルツアーとして県立山口図書館、山口県文書館の見学会が実施されました。この見学会も多数の参加者があり、2班に分かれての見学となりました。

見学会では、県立山口図書館・文書館の書庫内をご案内いただき、貴重な資料を目の当たりにすることができました。また、両館の事業・活動などについて、詳細にご説明いただきました。

終わりにになりましたが、このたびの研究例会開催に際しお世話になりました西日本図書館学会の皆さまに、心よりお礼申し上げます。とくに、事務局長の遠山潤氏、山口支部長の佐々木鶴代氏をはじめ、安光裕子氏、森川信夫氏など山口支部の方々のご尽力に厚くお礼申し上げます。また、山口県立山口図書館、山口県文書館の皆さまにもお世話になりました。深く感謝申し上げます。

（事務局 小黒記）

## 中国研究の専門図書館

### —香港中文大学中国研究服務中心<sup>センター</sup>訪問記—

楊 韜（名古屋大学大学院）

2007年11月初旬、香港中文大学(CUHK)の中国研究服務中心<sup>センター</sup>(Universities Service Centre for China Studies、以下USCとする)に訪れた。USCは、「図書館」という名前が付いていないが、中国研究の専門図書館である。日本でも一部の研究者に知られている。

USCの前身は、1963年に欧米の中国研究学者たちが香港で設立した「大学服務中心」という機構であり、1988年から香港中文大学の研究機構となった。USCの所蔵は、主に1950年代初頭から中国で出版・発行されてきた資料である。それは、全国や各省市の新聞や雑誌、政府機関の出版物、そして学術機関の研究成果を含む。最も注目されるのは、中国中央、地方政府が発行した年鑑と統計資料である。その殆どは創刊号からの長期に渡った系統的な資料である。ほかに、USCの独自の分類法によって区分されている蔵書を利用することが便利である。

近年USCが力を入れているプロジェクトは、文化大革命に関する資料の収集と電子化することである。すでに文化大革命資料のCD-ROMが作られ、センター内での利用と一般向けの販売は始まっている。また、民間人による個人記録などの歴史資料の収集と保存活動も展開している。さらに中国研究者にとって、冬と夏の集中研究セミナーや毎週一回に行うランチセミナーも、世界各地からの研究者と交流する絶好な機会であろう。

### 研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度3回(6月頃、12月頃、3月頃)に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

- 氏名(所属)
- 連絡先(住所、電話、メールアドレス等)
- 発表題目
- 発表要旨(200字程度)
- 発表時間(通常質疑応答を含め1件1時間程度)
- 発表希望場所(例: 関東、関西)

## 毛利宮彦早大図書館退職の謎の解決

中西 裕（昭和女子大学短期大学部）

本務校の紀要である『学苑』792号（2006.10.1）に「図書館学者毛利宮彦の洋行」なる小論を發表し、それを基にして昨2007年3月の本研究会第3回研究例会において毛利宮彦についての發表を行ない、短い報告を本誌100号に載せたところ、それを読まれた高梨章氏が本誌102号に「毛利宮彦の謎」を寄せられた。

そこには毛利が早稲田大学図書館を辞した理由がいとも明確に解き明かされており、驚愕した。辞職の真相は陽子（芸者家三武の金太郎）なる芸術座の女優との艶聞だという。さっそく『やまと新聞』を確認したところ、高梨氏の指摘どおりの文章が載っていた。それほど大きなスペースをとったものでもなく、うっかり見落としかねない地味な記事であり、氏の博搜ぶりに脱帽の思いを新たにした。早稲田大学図書館の司書として30年近く勤めた筆者としては、毛利在籍当時の同図書館長であった春城市島謙吉の日記にも、坪内逍遙日記にも明確な記述がないことから、事の真相は永久にわからないのではないかとあきらめていたところへ、この報知に接し、20年来の疑問が解けた思いであった。高梨氏の学恩に深く感謝申し上げたい。

この指摘によって、すでにわかっていた事情の大半が嵌め絵のように、ぴたりとおさまったように思われる。

先に挙げた文章に書いたことだが、大正5年7月24日にアメリカ留学から帰国して以後順風満帆の活躍ぶりだった毛利の一身に暗雲が漂い始めるのは翌大正6年になってすぐのことであった。4月28日に毛利の母が逍遙宅を訪ねて来、逍遙はそこへ市島春城を招いて毛利の件を協議した。逍遙日記については高梨氏も引用されているので、ここでは市島日記を引用すると、市島は「毛利宮彦母出京ニ付坪内逍遙方ニ会見宮彦身上の事を協議」と書いている。

9月2日に至って市島館長はついに自宅待機を命じる。当日の市島日記には「関太郎来弁妄書の件ニ付打合をなして去る毛利宮彦を招き当分学校ニ出席見合自宅ニ控へ居るべき旨を申渡す」とある。スキャンダル発覚にともなう措置である。同じく28日には「関太郎一身上の件ニ付来話、毛利宮彦図書館辞任の事を決す」の記事が見える。早大図書館で同僚のはずの関太郎が同時期に一身上のことで現われるのが奇妙である。毛利の問題と関係するのかどうかは不明であるが、残念ながらこれ以上の手がかりはない。

辞任の前年末に毛利は所蔵の美術品などを市島に売却している。

「毛利宮彦所蔵の品物若干売却の為め見せに寄越す」（大正5年11月17日）、  
「毛利宮彦へ木戸公手簡代二十円為持遣る」（同12月26日）、  
「毛利宮彦より絵物花瓶を購入る」（同12月28日）。

この時点ですでに毛利は金の工面をしなければならぬ事態に陥っていたことは明らかである。あるいは帰国費用返済のためかとも考えられるが、これも醜聞にからむことなのかもしれない。

毛利宮彦は名古屋の著名な西川流の踊りの師匠西川嘉儀の姪に当たる。すなわち母は嘉儀の妹で＝子という。坪内逍遙の遠い親戚でもある。また、早稲田大学を退職後に彼自身が「欧米の『能楽』研究」（『典籍之研究』4 大正 15.1.25）を書くなど、毛利自身が芸能の世界と無縁ではなかったのである。

大正 5 年 10 月 9 日から山形市で開催された日本図書館協会主催第 11 回全国図書館大会での記念写真（『図書館雑誌』29 号 大正 6.2.10）では毛利だけが若く、ひときわ目立っている。就職や退職に際して必ず登場してくる毛利の母の姿は明治・大正の時代よりはまるで現代の親子の姿を見るようでもある。こう並べてみると、スマートである反面、どこかひ弱さを思わせる毛利宮彦の弱点が彼を早大図書館から退職させることになったように思われるのである。

＝：（金扁に沈の旁を合わせた文字）

### 『図書館文化史研究』第 26 号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第 26 号の原稿を募集中です。  
原稿の締め切りは、2008 年 12 月末日です。ふるってご投稿ください。  
なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。

### 『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。  
次号（105 号）掲載を希望される場合、2008 年 6 月末日までに別記事務局宛原稿をご送付ください。  
今後ニューズレターでは、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報して行きたいと思えます。会員・非会員を問わず、関連業績などを事務局までご連絡ください。皆さまのご協力をお願いします。

## 運営委員会通信

### ■■ 次回運営委員会について ■■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

### 記

- 日 時 7月12日(土) 13時30分～14時20分
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン8階 司書・司書教諭室
- 内 容
  1. 2007年度決算について
  2. 25周年記念事業決算について
  3. 2008年度事業計画・予算について
  4. 2008年度研究集会・総会について
  5. 日本図書館文化史研究会規約の改正について
  6. 2008年度第3回研究例会について

ほか

### ■■ 前回運営委員会の報告 ■■

実施日：2008年3月15日  
場所：明治大学

以下のような事項について、協議しました。

1. 2007年度第3回例会について
2. 『図書館文化史研究』第25号について
3. 25周年記念事業決算について
4. 2007年度決算について
5. 2008年度事業計画・予算について
6. 2008年度第1回研究例会について
7. 『ニューズレター』第104号について
8. 2008年度研究集会・総会について
9. 函館図書館での研究例会開催について
10. 会員動向

ほか

## 事務局だより

### ■■ 25周年記念事業寄附金ありがとうございました ■■

創立 25 周年記念事業寄附金募集のお願いに対して、多数の会員の皆さまにご理解をいただき、多額のご寄附を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

『ニューズレター』前号でご案内申し上げましたように、このたびのお願いに対して、多くの方からご寄附を頂戴したことから、予定を繰り上げてご寄附の募集を締め切らせていただきました。

今回 25 周年記念事業寄附金募集のために開設しました口座へは、81 名の方から、合計 584,500 円のご送金を頂戴しました。振込手数料を差し引いても、576,160 円のご寄附をいただいたこととなります。またこの口座ではなく、研究会の口座へ会費とともにご寄附をお送りくださった方もおられます。

皆さまのご芳情に、あらためて深くお礼申し上げます。皆さまからの貴重なご寄附につきましては、その用途等について運営委員会で慎重に検討をし、9月の会員総会にお諮りする予定です。

### ■■ 会費納入のお願い ■■

2008 年度会費の納入をお願いします。会費は 3,000 円です。会費を納めていただく方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙を同封しました。

なお、日本郵政公社の窓口扱いの口座送金手数料が値上げされました。つきましては、会費の送金は極力 ATM をご利用くださるようご協力をお願い申し上げます。

### ■■ 住所変更等のご連絡をお願いします ■■

研究会からの刊行物の送り先などについて変更が生じた場合、あるいは封筒貼付の宛名ラベルの記載が不正確な場合、早めに事務局までご連絡ください。

日本図書館文化史研究会  
2008年度第3回研究例会のご案内

2008年度第3回研究例会を、函館市中央図書館のご協力をいただき、おおむね下記のように実施することになりました。例会内容などの詳細につきましては、決定次第『ニューズレター』や研究会のウェブサイトでご案内申し上げます。

つきましては、第3回例会での発表者を募集します。北海道在住の方、もしくは北海道の図書館の歴史に関する発表を優先して受け付けます。奮ってご応募ください。

- 開催日程： 2009年3月20日（金・祝）・21日（土）
- 開催場所： 函館市中央図書館（北海道函館市五稜郭町26番1号）  
<http://www.lib-hkd.jp/>
- オプションツアー： 市立函館図書館（旧本館）見学会